

市民発表会プレゼンテーション

提言書報告



「まちづくり基本条例の4基本理念」

まちをより良くしていくための
基本的な方向性・目指す姿

4つの基本理念

地域資源をいかし
活力を向上させるまちづくり

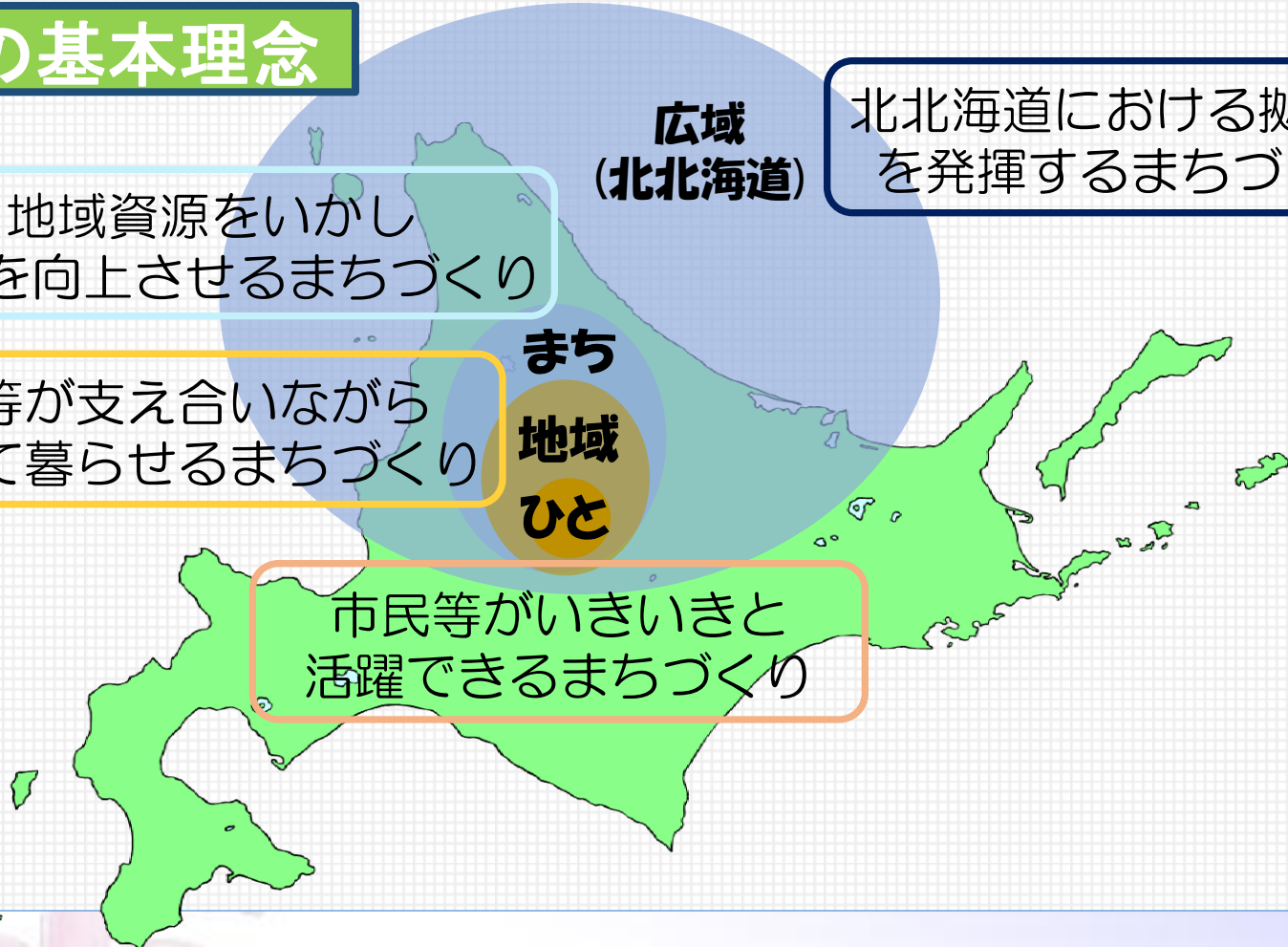
市民等が支え合いながら
安心して暮らせるまちづくり

市民等がいきいきと
活躍できるまちづくり

広域
(北北海道)

北北海道における拠点性
を発揮するまちづくり

まち
地域
ひと



「まちづくり基本条例の3基本原則」

まちづくりを進めるときに大切なこと

3つの基本原則

市民主体

地域主体

健全な市政運営

総合計画市民検討会議に求められたもの

基本構想
(ビジョン)

目指すまちの姿

基本計画
(目標)

実現のための方策

提言

市長

絵に描いた餅になってはならない総合計画

現在の旭川市の現状

日本中の自治体の現状(ナショナル・トレンド！)

人口減少(減りゆく若年世代・東京(札幌)集中)

高齢化の進行(増えゆく高齢者世代)

財政悪化(増えない税収・増える義務的経費)

7次総合計画への提言でも挙げられていた！

事業計画の選択と集中

結果は？

財政調整基金の増加(5→50億)のみ

もう後がない！実効性のある計画が必要！

課題は相互に関連！

分科会に分けての検討

検討体制

全体会議

代表者会議

分科会

第1分科会

福祉・子育て

第2分科会

教育・文化

第3分科会

安全・都市基盤

第4分科会

産業・交流

まちづくりの在り方について

(1) 主体となる市民意識の向上

マイナス面に対する危機意識の欠如
プラス面に対する認識の不足

人口35万の中核都市

少ない自然災害

豊かな自然

安全良質な農産物・林産資源

知名度の高い観光拠点・スポーツ・文化活動

旭川市のパワーを活かしきれてない

主体のはずの**市民の啓発**が必要！

まちづくりの在り方について

(2) 多様化した地域ニーズの把握

社会構造の変化と共に世帯構成が変わっている
三世帯同居→核家族化→高齢者独居増

地域のニーズも多様化している

中心地居住と郊外居住、年齢構成も様々

従来とは異なる**地域ニーズの把握**方法が必要！



まちづくりの在り方について

(3) 行政サービスの実効化の推進

- 限りある財源を有効に活用する必要
市民ニーズの汲み上げの効率化
地域に特化した行政サービス提供
地域連携の在り方の見直し
- 事業結果の評価方法の見直し
サービス受給者の参画による見直し
頻回の見直し

市民意識の啓発、地域コミュニティのニーズ把握の推進

目指すまちの姿は？

旭川の持つポジティブな側面を活かし、

「都会の利便性を豊かな自然環境の中で享受できるまち」

を目指すことが出来るのでは？

そのためには？

自治のあるべき姿を再認識する必要

全ての市民が**「将来の旭川のために」**という志を持つ！

各分科会の提言書説明をお聞きください！

第1分科会

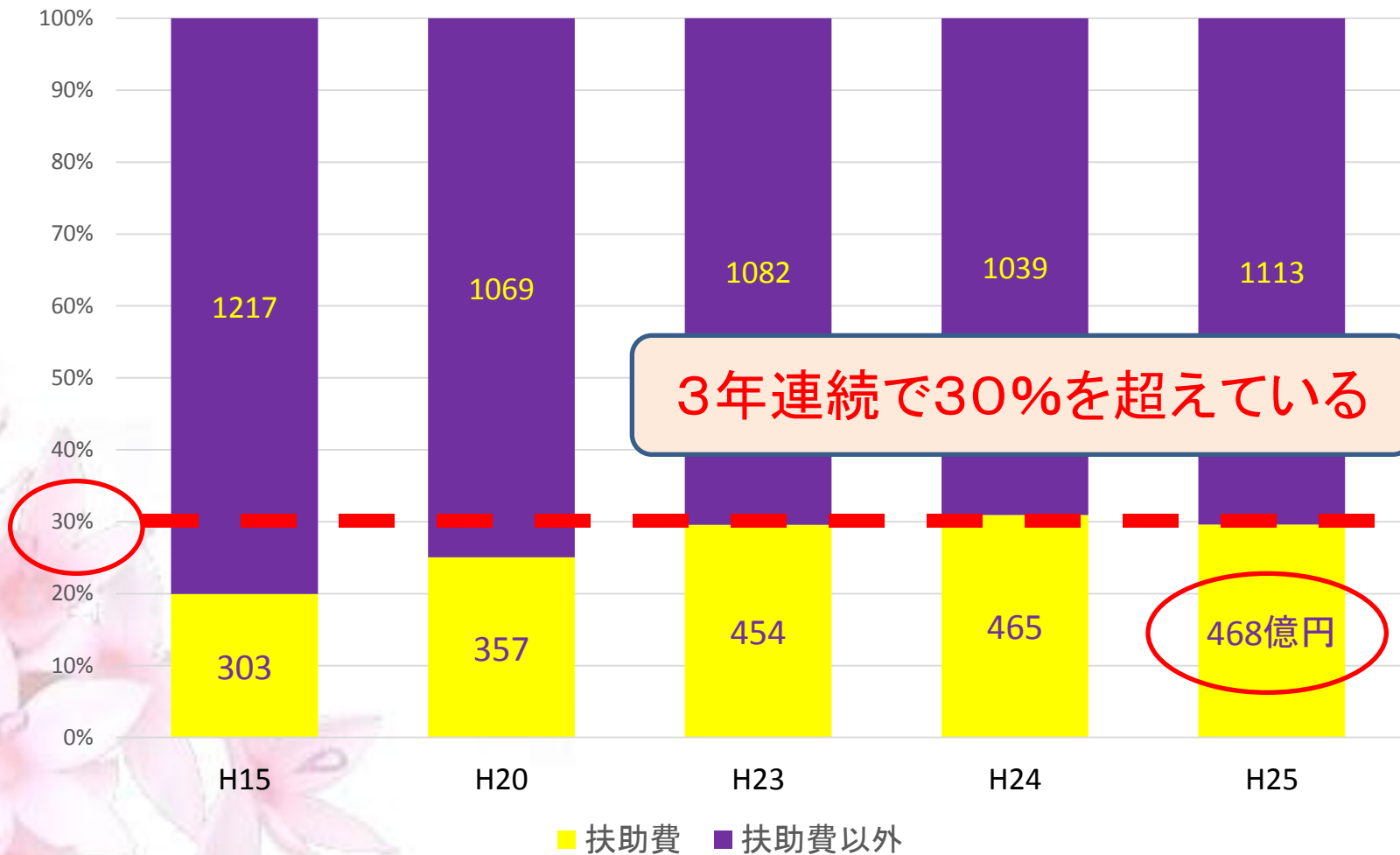
(福祉・子育て・医療・健康づくり)



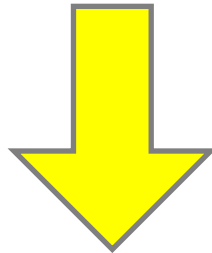
旭川市の現状

- 低い出生率、人口減少
- 10万人到達を目前にした65歳以上人口
- 地域における相互扶助機能の弱体化
- 虐待・パーソナルネットワークからの孤立
→表層的な部分からは見えにくい課題
- 複合的な福祉的課題
→緊急的対応を要する問題も

金額も比率も増え続ける扶助費



「人口減少」
「増えない税収」
「扶助費の増加」

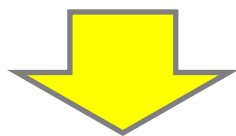


このままで大丈夫？
あさひかわの未来



第1分科会の議論

- ・人口減少下の社会のあり方
- ・自助・互助・共助・公助のバランス
- ・複雑化する生活課題への対応
- ・厳しい財政状況

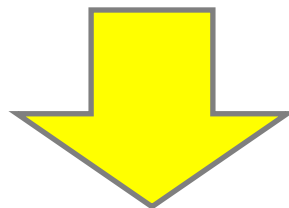


- 第1回 福祉・子育て・医療の「総点検」
- 第2回 福祉・子育ての「展望」
- 第3回 医療・健康づくりの「展望」
- 第4回 提言書の検討

第1分科会の考え方

市民が...

- ・本市が置かれている現状
- ・自らの生活
- ・今後目指すまちの姿



これらを見つめなおす

- ・自らできることについては積極的に取り組む
- ・まちづくりに対して責任をもって参画する

目指すまちの方向性：5つの柱

- ① **生活を営む地域において役割を持った支え合い**
【短期的達成課題】
- ② **「縦割り」行政機構の改革**【短期】
- ③ **子ども・子育て支援施策の強化**【中・長期】
- ④ **身近な地域における総合相談拠点の整備**【中・長期】
- ⑤ **市民が創る「ウェルビーイング・シティ」の実現**
【中・長期】

①地域において役割を持った支え合いの実現

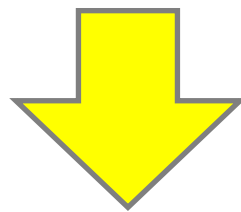
- 各世代の「つながり」を意識した**役割づくり**
→生活課題の共有・解決へ
- 働きやすい環境の整備、**就労支援**
- 住民主体の**地域包括ケアシステム**を構築
- 「地域円卓会議」**の設置



②「縦割り」行政機構の改革

○医療・福祉の**連携**による高い水準の支援を実現

○高齢者・障害者福祉における**縦割り行政の解消**
→市の相談部局間の連携



市民サービスの低下を防ぐ

③子ども・子育て支援施策の強化

- 子育てを通じて**みんなが成長**し合う環境づくり
- 子育て世帯への**経済的支援**・保育サービスの充実
- 子どものまちづくりへの積極的な参加**



④身近な地域における総合相談拠点の整備

○わかりやすく、**ワンストップ**の相談窓口

○身近な拠点に医療・福祉**専門職**をさらに配置
→社会福祉士・精神保健福祉士・保健師



⑤市民が創るウェルビーイング・シティの実現

○すべての市民が**自ら健康づくり**に取り組む

→医療費削減、少しでも財政への負担を軽く

○健診受診の取り組みを**インセンティブ予算化**

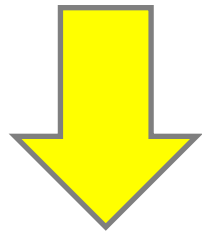
○気づき、声かけ、見守り・・・生活課題の解決へ



まとめ

○市民が福祉・子育ての**担い手、受け手**

○身近な地域で**自助、互助、共助、**
そして、**公助**により支え合う



「健康都市あさひかわ」
を目指して



<優先すべき課題は・・・>

◎身近な**生活圏域の設定**

→互助・共助による支え合いの仕組み構築

◎**縦割り行政の解消**・行政機構の再点検

→行政による市民サービスの向上を追求



旭川市における「教育・文化」の方向性

「学びあい ささえあうまち あさひかわ
世代をつなぐ 四季彩のまち」

＜検討に当たっての共有認識＞

- 人口減少に向けた対策が急務であること
- 次代を担う人づくりが急務であること



結論① 「若者世代への支援」

結論② 「シニア世代からのサポート」

→短期(1~4年目安)での取組

- ・「若者支援」は全体的なテーマであり、切実な問題
- ・まちを長生きさせていくためには欠かすことのできない視点
- ・市民, 企業, 学校, PTA, 地域, 市など, 全てが一丸となりサポートに取り組む必要がある。
- ・それが活力につながっていく。
- ・「若者を大切にする」ということを中心に据えて, 他の世代にも配慮しながら, まちを盛り上げていくことが重要

結論③「ふるさと愛(郷土愛)の育成」

→中期(5～9年目安)での取組

- ・「ふるさと愛(郷土愛)」についてはまちづくり全体に繋がる。
- ・旭川には多くの良いものがあるのに、地元の人は無意識であるため、外からきた人たちの視点も重要
- ・自分の周りの環境の良さを認識することは、まちを誇りに思うことにつながる。
- ・子どもへの教育が重要。最前線に立つのは「学校」である。そのためには、地域や家庭などとの連携、それぞれの役割分担が重要である。
- ・親がこのまちを愛すれば、子どもにも伝わる。

<第2分科会での検討内容>

- ① 幼児教育
- ② 学校教育
- ③ 高等教育
- ④ 社会教育(生涯学習)
- ⑤ 文化
- ⑥ 芸術
- ⑦ スポーツ・レクリエーション
- ⑧ 家庭教育
- ⑨ 若者支援



<主な提言>

- ① 幼児教育
 - ・ 幼児教育の充実
 - ・ シニア世代からのサポートの充実
 - ・ 異世代交流の推進

- ② 学校教育
 - ・ 学校教育の充実
 - ・ 地域を学ぶ, 地域に学ぶ, 地域で学ぶ活動の推進
 - ・ PTA活動の推進
 - ・ 図書館, 博物館, 科学館等の有効活用

- ③ 高等教育
 - ・ 開かれた大学運営の促進
 - ・ 高等教育機関同士の連携強化
 - ・ 地域産業を盛り上げるための高等教育機関の在り方の検討

<主な提言>

- ④社会教育
(生涯学習)
 - ・市民活動交流センターCoCoDeの充実
 - ・地域交流拠点の整備・充実
 - ・生涯学習活動推進に向けた支援の充実

- ⑤文化
 - ・新たな文化ビジョンの策定と市からの支援
 - ・色々な分野の連絡協議会の設立

- ⑥芸術
 - ・市民への広報活動の推進
 - ・地域資源をまとめたマップ・ホームページの作成, 文化財の魅力再発見と発信
 - ・団体運営を担う人材育成や資金支援

<主な提言>

- ⑦スポーツ・レクリエーション
 - ・アスリート教育支援
 - ・スポーツ合宿の誘致
 - ・東光スポーツ公園における複合的な施設整備の推進

- ⑧家庭教育
 - ・家庭教育に関する広報活動の実施
 - ・PTA, 地域による家庭教育講座等の推進



<7つの方向性>

- ①生涯を通じた学習の推進
- ②社会で活躍できる「人づくり」の推進
- ③地域に根付いた「教育・文化」の推進
- ④地域(文化・芸術等)の魅力発信
- ⑤地域への誇り, ふるさと愛(郷土愛)をもった「人づくり」の推進
- ⑥市民が力を発揮できる環境づくりの推進
- ⑦世代間の結びつき, 支え合いの推進

旭川における「安全・都市基盤」の方向性

「人口減少に果敢に取り組むまち」

「Urban & Ruralな暮らしを楽しむまち」

「災害に強い道北圏の防災センター」

〈検討に当たっての共有認識〉

- 周辺部と連携した計画的段階的なコンパクトシティー化
- 全ての市民が安心して暮らせるような人と人のつながりの構築
- 道北圏での防災・災害対応の拠点

〈第3分科会での検討内容〉

①都市環境整備

②住環境

③交通

④防災

⑤消防・救急

⑥交通安全・防犯

⑦環境・リサイクル

⑧エネルギー

⑨雪対策



①都市環境整備

課題

- 人口減少・中心部の空洞化に対する都市と周辺の再配置及びデザイン
- インフラ等の経年劣化, 老朽化した建築物の増加への対応

方向性

「都市のダウンサイジングと社会資本の適正化」

提言

- 将来の人口減少・少子高齢化を見据え, 都市の規模, 構成を再検討
- 中心市街地を居住性向上, まちなか住居の誘導(特に高齢者)
- 各地域間の連携強化, 各地域の特性, 多様性の向上を図る。
- 老朽施設を取り壊す「減築」等, 守るべきインフラの選択, 適正保全
- インフラ保全に関する情報を市民に提供し, 共通認識を図る。

②住環境

課題

- 買い物公園の魅力が十分に伝わっていない。
- 大型駐車場を持つ郊外型ショッピングモールの進出による市街地空洞化
- 空き家の増加

方向性

「豊かさや愛着を与える旭川らしさを感じるまち」

提言

- 中心市街地の居住部分の拡充
- 買い物公園の魅力の演出, 7条緑道及び買物公園の素晴らしさを宣伝
- イベントによる賑わいの創出と外部発信
- 空き家対策(除却・有効利用・危険防止)

③交通

課題

- バスの停留所の位置や路線がわかりづらい。
- 柔軟なバス路線対策ができていない、雪による公共交通機関の遅延
- 中心部と周辺部、空港とのアクセスが悪い

方向性

「都市機能を再生する柔軟な公共交通体系」

提言

- 自動車交通と機能的に補完し合う交通環境の整備(駐車場+シャトルバス)
- トラム(路面電車)などの新しい交通機関の構築とその発信
- 冬期の増便等ニーズにあった柔軟なバス路線対策
- 観光客, 外国人にもわかりやすいバスマップの作成

④防災

課題

- 「災害が少ないまち」は「災害に不慣れなまち」
- 地域コミュニケーション不足による、要配慮者への緊急時の対応

方向性

「住民意識に支えられた安心を追求し続ける災害に強いまち」

提言

- 「災害に強い街づくり」をキャッチフレーズに、防災対策や避難対策の充実
- 道北圏の防災センターとしての機能を担う(道北他都市への派遣体制)
- ハザードマップの充実化
- 各地域の近場に一次避難施設(場所)を確保し、円滑な避難態勢を構築
- 自主避難出来ない人(要配慮者)の避難方法・体制の整備

⑤消防・救急

課題

- 消防団員の不足
- 救急車の利用方法が不適切な場合がある。

方向性

「組織的な災害対応のための市民との協働」

提言

- 消防団員の地域での役割をPRし、団員の地位向上を図る。
- 救急車の適正利用を図るために、今後とも救急車の正しい利用方法、家庭、事業所等における救急処置等の講習を行い、救急知識の普及に努める。

⑥交通安全・防犯

課題

- 独居の高齢者や、子どもへの悪徳商法被害が増加
- 悲惨な死亡事故の発生
- 自転車の運転マナーの悪化

方向性

- 「ソフトとハード両面での事故防止への取組」
- 「独居の高齢者や子供達が安心して暮らせるまちづくり」

提言

- 独居の高齢者への地域での見守り体制の構築
- 悪徳商法対策の相談窓口である消費生活センターの周知
- 死亡事故の原因を追求し、道路構造を改造する等ハード面の整備を図る

⑦環境・リサイクル

課題

- 中心部の緑化率が低く、緑の連続性がない。
- 鮭が遡上する川や多くの緑がある都心部の価値の認識不足

方向性

「市街地を囲む緑の回廊を生かした緑濃い都市・旭川」

提言

- 人が改変するレベルを数段階にゾーニングし、保全と活用のバランスを図る
- 継続的な森林整備が必要
- 自然環境に関するハード的な整備とともに、市民参加のソフト施策の実施

⑧エネルギー

課題

- 太陽光発電, 森林バイオマス燃料利用が普及していない。
- 大量にある雪の有効利用が進んでいない。

方向性

「地産地消型森林バイオマスエネルギーの活用」

提言

- 各家庭でのバイオマス燃料導入による省エネ化, 林業雇用, 森林整備
- 雪等未利用エネルギーの有効利用促進
- 旭川仕様として住宅の高断熱化を推進

⑨雪対策

課題

- 除雪後の道路に堆積した雪による交通障害
- 高額な除排雪費用

方向性

「住民参加を含む効率的な除排雪システムの構築」

提言

- 住民合意のもと、除雪地域を大胆に見直す
- 見通しの悪いところの除雪重点化
- 民間企業を含めた地域による除雪の仕組みの検討、除雪情報の提供

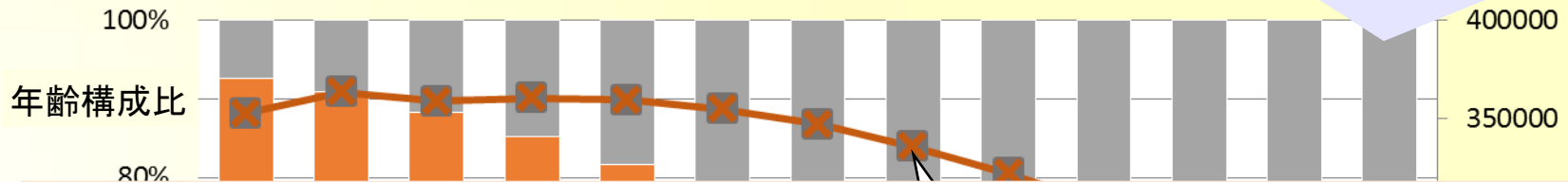
1. 旭川経済の基盤となる **産業**

2. 地域社会の結びつきや仕組みづくりに関わる **交流**



旭川市の人口推計

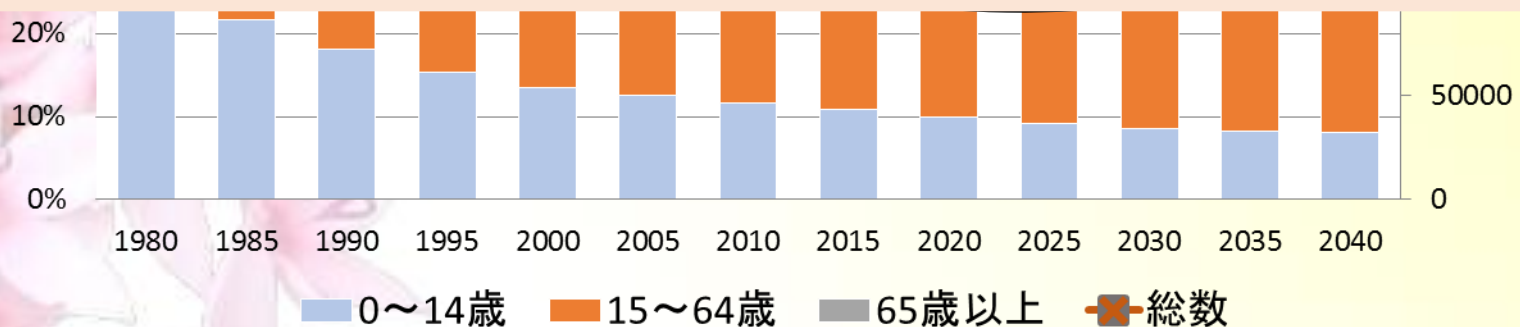
2040年(25年後)
人口:25万人(65歳以上が人口の43%)



年齢構成を見てください！15～64歳の人口減少です。

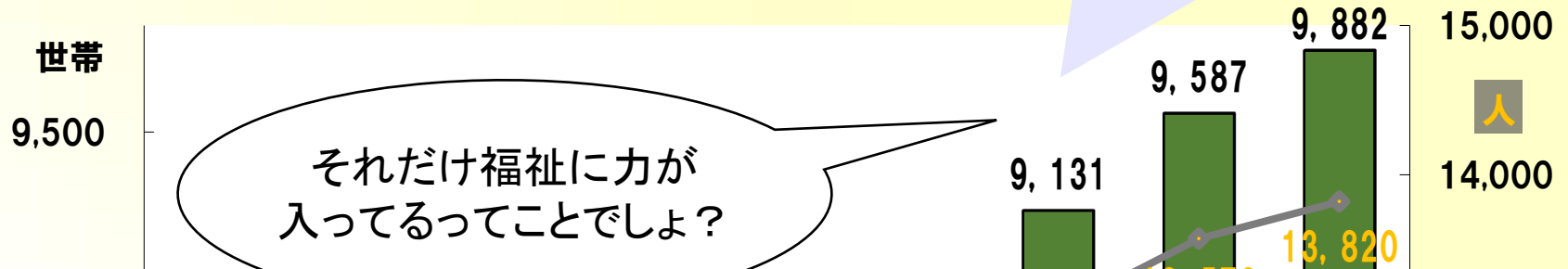
1985年25万人 ⇒ 2015年20万人 ⇒ 2040年12万人

さらに15歳未満は、1980年 8万人 ⇒ 2040年 2万人

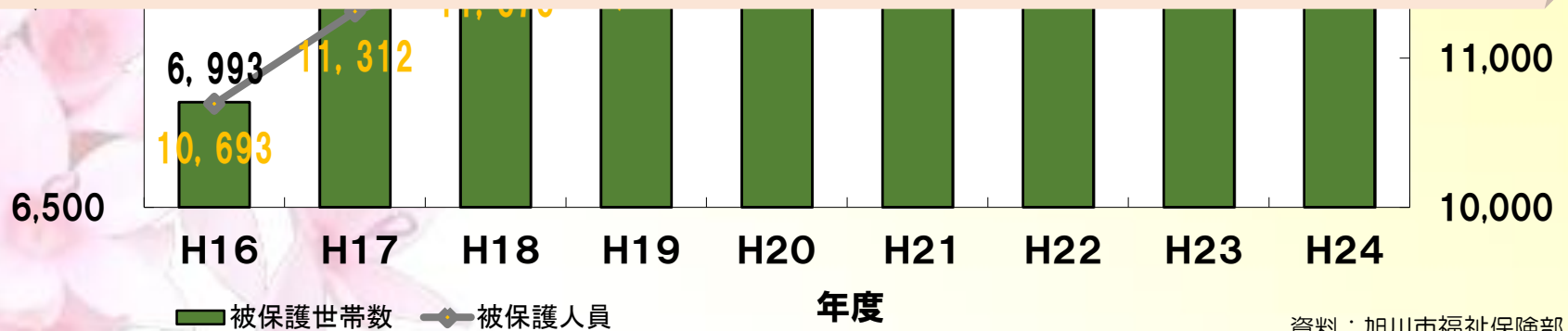


旭川市の生活保護

毎年約400人ペースで増加

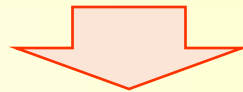


約25人に1人，約18世帯に1世帯が生活保護で，
15～64歳の働き盛りが約6,200人もいます。



なぜ、こうなるのでしょうか？

次代を担う若者や子供を持てる女性にとって、
希望を満たす仕事が旭川に少ないからである。



- 旭川に魅力ある仕事があれば、若者たちは流出しない。
- 女性に安心な仕事があれば、積極的な人生を描ける。
- 若者や女性が集まり仕事に就けば、家庭を持ち、子供を作り、教育を受けさせ、地域社会の交流にさまざまな貢献活動が展開される。

しかし、そう簡単に産業は起こせない...

だからと言って、この問題を先延ばしにはできない。
今始めなきゃ、このまちは推計以上に早く衰退する...



- 若者や女性にとって魅力のある『**ビジョンの明示**』
- 外発産業の『**誘致**』と内発産業の『**育成**』
- 費用対効果の高いものから『**選択と集中**』
- 旭川の地域特性と豊富な『**資源を有効活用**』
- 外に売り、外から人・モノ・金を入れる『**仕掛け作り**』

産業・交流のテーマ

まごころを込めて感動をつくる

～温かい心と秀逸なクオリティ～

【個別施策のキーワード】

- 安全・安心 ⇒ 高品質&高機能 ⇒ 地産地消
 - ブランドプロモーション ⇒ グローバル展開
 - 継承と確保 ⇒ 若者と女性 ⇒ 再生と創設
- 以降に、個別施策の一部を示す。

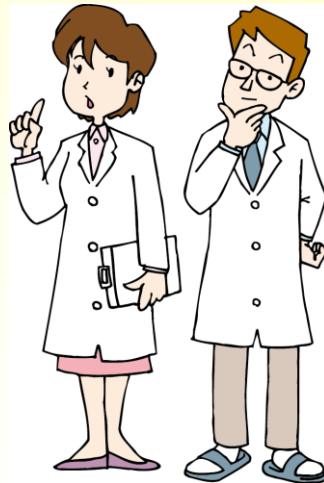
プロモーションの強化

- ブランド米の銘柄と産地認知度の向上
- 地元産広葉樹を使った製品開発と積極活用



高品質 & 高機能

- 食品加工や機械金属の研究支援体制の充実
- 自然エネルギーと積雪寒冷地の有効活用



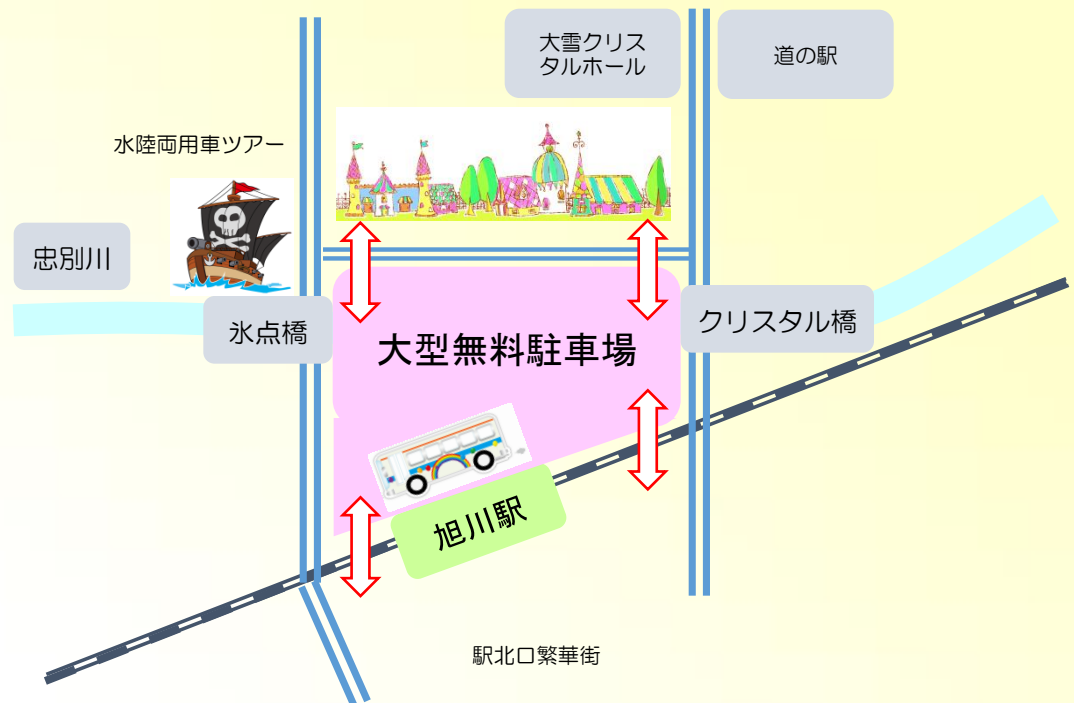
グローバル展開

- 旭川産品の市場拡大となる空港都市の構築
- 感動的スポーツイベントの振興



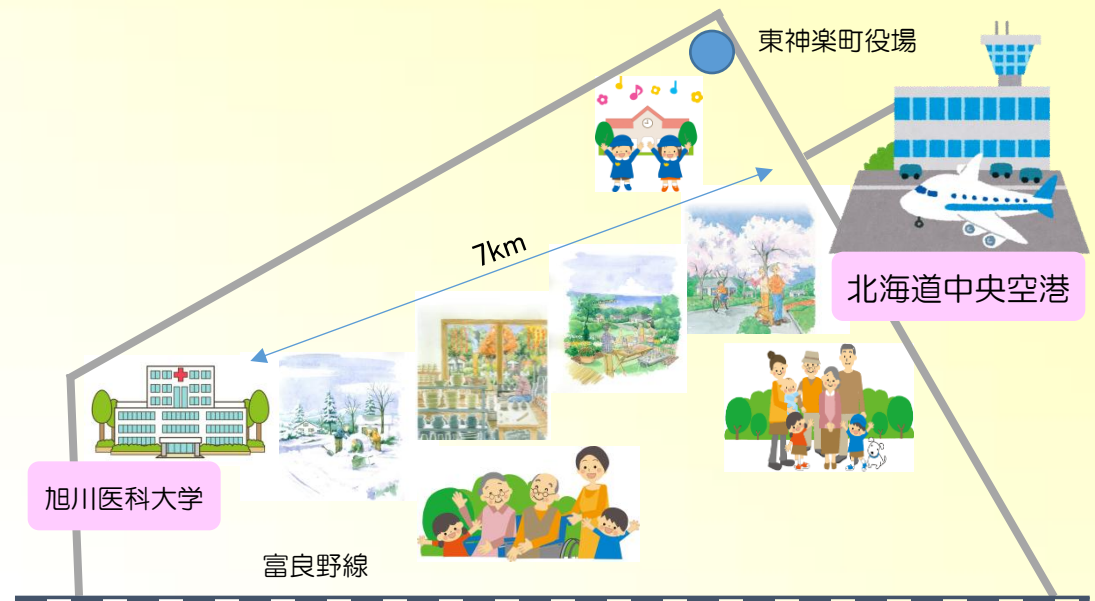
中心市街地(買物公園)の再生

- 商店街を楽しく回遊できる仕組み
- 旭川駅南口の大型無料駐車場の建設



人財確保の新たな戦略

- プラチナリゾートタウンの構築(高齢者向け)
- 北海道学芸大学・Uターンシッププログラムの創設

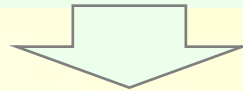


おわりに

私たち主体で、『感動あふれる』エクセレントな取り組みをする。



付加価値を高めるバリューチェーン(産業の連携など)を築く。



その成果は、ターゲットとポジショニングを考えてアピールする。



まち、企業、私たちの強くて高信頼なブランドを向上させていく。

20年後の旭川を生きる人々のために

成熟社会を迎えた日本

人口移動が止まらなると自治体が消滅する危機

「まちづくりはひとづくり」

ひとづくりには時間がかかる！

20年後のために方向転換をする10年
実効性のある諸施策を期待する